HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	2.情報収集チーム ： 利用者への情報提供を目指して
Author(s)	藤井, 愛美; 阿部, 拓希; 室井, 宏仁
Relation	北海道大学ピアサポート活動報告書（平成28年度版）p.15-25
Issue Date	2017-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65098
Type	report
File Information	02HokudaiPeerSupport_H28.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

2. 情報収集チーム
―利用者への情報提供を目指して―

藤井愛美[1]・阿部拓希[2]・室井宏仁[3]

1. はじめに

情報収集チームは 2012（平成 24）年度に、本学ピアサポート室（以下「ピア室」）にチーム制が敷かれた際に発足した。発足当初、チームの目的として設定されていたのは、主に各学部の情報の収集に関して企画すること－どのような情報を収集するか、どのように収集した情報をアウトプットするか－であった※。これは 2011（平成 23）年度より本学においてスタートした「総合入試制度」を念頭に置いたものである。これは約 45％の一年生が学部未決定の状態で入学し、2 年進級時に各自の希望と成績に応じて各学部・学科（学部によっては 2 年進級時に専攻やコースなども決定するが、以下では「学部・学科」にそれらの専攻やコースを含める）に振り分けられる制度である。この制度は高校卒業時点で進学する学部・学科が決められなくとも、大学入学直後の 1 年間で、それぞれの学部・学科でどのような事柄が学べるのかどうかや、進路の詳細について進学先を選択できるメリットがあるが、生まれて初めて大学生活を送る新入生にとっては、どの学部・学科へ行けばいいのかが分からなかったり、学ぶ内容の違いが十分に理解できなかったりすることも多かった。実際にそういった主旨の相談も当時より多くピア室に寄せられていた。

そこで、各学部・学科にいる先輩学生が、実際に日々どのような生活を送っているのかの情報を提供するため作成したのが、「とらのまき」である。「とらのまき」の大きな特徴として、学生目線でみた学部・学科情報が掲載されている点がある。例えばスケジュールについては、大学側が公式に公開している時間割の他、部活・サークル活動やアルバイトの時間など、正課外の活動についても記入できるようになっている。「とらのまき」はその後もデザインや内容の変更を含めて改訂され続け、今年も新年度版の発行にいたった。

当初は「とらのまき」を通じた学部・学科情報の提供をメインとしていた情報収集チームの役割は、その後さらに拡大する。新入生にとっての大きな関心事である部活・サークルにまつわる情報を整理整頓し、まとめて一冊のファイルとした「部活・サークル大辞典」、ピア室内の蔵書を整理しその情報を提示する「蔵書目録」といった企画が提案され、継続して実施されるようになった。本稿ではこれら 3 つの活動について、本年度の内容を記す。

[1]北海道大学法学部 4 年
[2]北海道大学教育学部 2 年
[3]北海道大学生命科学院修士 2 年

2. とらのまき

2.1. とらのまきの目的

情報収集チーム全体との目標とも重なるが、1 年生がどのような情報を欲しているか考えたとき、やはり学部、学科のことが考えられる。「1.はじめに」でも少し触れているが、北海道大学では 4 年前から「総合入試制度」が導入された。入試の時点では文系、理系の区分けだけで、1 年次の成績と本人の希望により 2 年進級時に学科が決定される。大学で授業を受けながら、どのような進路に行きたいかを選べる反面、似たような学問を取り扱っている学部、学科もあるため志望先を決めることができない人もいる。学校側の説明会とは別に、学生目線の意見を取り入れて参考にしてもらうために「とらのまき」は製作している。

2.2. とらのまきの改訂について

情報収集チームでは 2012（平成 24）年度に初めて「とらのまき」を作成し、過去 4 年間で毎年更新してきた。翌 2013（平成 25）年度には全学部、学科のデータを集めることを目標とし、これを達成できた。しかし、学部はすべて揃ったものの、人数の少ない学科や専攻のデータを完全に揃えることはできていなかった。さらに、本学の学部学科の一部では今年度から 4 学期制を導入したため時間割が今までと大きく異なっている場合があり、更新の必要があった。こういった理由から、今年度は前年度同様、これまでのデータを引継ぎつつ、各学部学科の最新のデータを集めるために主に 2、3 年生の学生にアンケートを配布、回収し改訂、更新をした。

2.3. 前年度からの変更点

まず、前年度の反省に挙がっていた、時間割に書いてある余計な情報（例えば「寝ている」など） や個人が特定できうる情報を削除した。四学期制が導入されたことにより大幅に時間割に変更のあった学部については、できる限り最新のものに更新できるように努めた。また、表紙や裏表紙は手書きのイラストを採用し、温かみのあるデザインを目指した。

2.4. 改善点、反省点

前年度に比べて、掲載できる学部・学科が少し増えた。具体的には文学部の地域システム科学講座や北方文化論講座、農学部の生物環境工学科などが挙げられる。しかし、それでもなおデータのない学科や講座が存在する。

反省点もあった。打ち込み作業をしているうちに不自然な空白ができていたり、行がずれていたりしたことに気付かずに印刷をしてしまった。機能的な問題はないが、やはり多くの人に読んでもらうものなので、確認作業を怠らないようにすべきだった。また、今年度もとらのまきの完成時期が 11 月下旬と遅れてしまった。来年度こそ夏休み明けの公開を目指していきたい。

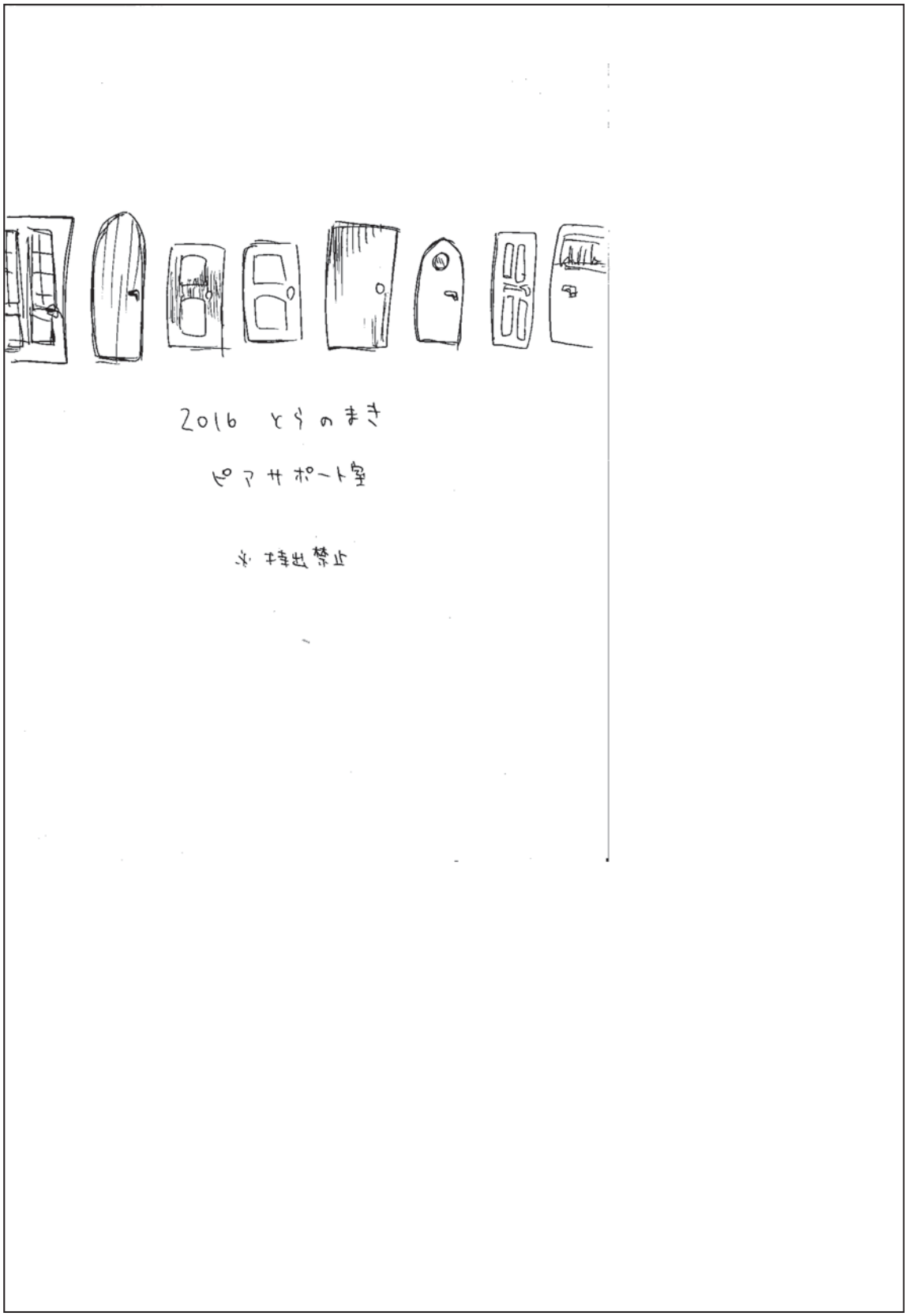


図 1　とらのまき 2016 表紙

図 2　とらのまき 2016 裏表紙

学年　2　学部・学科　水産学部資源機能化学科

Q1-1.スケジュール（2年1学期）

	月	火	水	木	金
朝					
1限			博物館概論 (学芸員)		
2限		動物生態学概論			きのこ学
3限	微生物学(夏)	水圏生物学(春)/ 水産物理学(夏)	有機化学(春)/ 生化学Ⅰ(夏)	海洋学入門(春)/ 水産資源各論(夏)	水産基礎 資源学(夏)
4限					
5限	(たまに数義 を覗く)	博物館資料保存論 (学芸員)			博物館資料論 (学芸員)
放課後		部活	部活		

Q1-2.忙しさ（1，2年と比べてどうか、バイトやサークルとの両立は可能か教えてください）

水産の講義だけであれば驚くほど時間に余裕があります。春は金土日月の四連休も可能です(笑)。基本的に午前が空いているので、朝にバイトや部活の練習をこなすことができます。他にも空きコマが多いので、興味のある他学部や数義の講義をとっています。

とにかく自己のスケジュール管理でたくさんの経験ができるので、時間に余裕のある時間割は生活のしがいがあります。

図３　とらのまきスケジュール編

経済学部　2年

１．授業

３年生になったらゼミが始まります。少人数で先生の下で専門を学びます。

２．似ている学部・学科

農学部農業経済学科。経済学部から農経の授業を取る人もいます。また逆もいます。

理学部　数学科　2年

１．授業

月曜は学部共通の科目、火～金は数学科の科目を受講することになります。教師を目指す人は、教職科目も取ることになります。就職の保険として教職科目を選ぶ人も多いです。より詳しい数学を学ぶことができるため、数学が好きな人は飽きることなく数学に取り組めますが、進度が速いため、授業に合わせて履修するには努力が必要です。

２．似ている学部・学科

私の場合は数学が好きだったため、学部学科に迷うことはありませんでした。理学部の学科は、理学部共通の科目と、各学科の科目に関する講義及び演習というスタイルが多いようです。

理学部　数学科　3年

１．授業

週２コマで４単位の授業とセットで週２コマ連続で２単位の演習の授業がある。２年生で基礎数学 A, B, C, D を習い、３年前期で代数、幾何、解析の基礎を学んだ後に３年後期で専門的な内容を扱い、４年生で卒論が無い代わりに卒業研究がある。実験等は無く、基本的に座学のみ。多くの教養の単位を学部の卒業要件に移せるので好きな授業を取れる反面、教養で数学を履修しなかった場合、学部で単位を取るのは非常に厳しい。

２．似ている学部・学科

似ている学部、学科は無いと思います。理学部の中でも数学科は特殊なので。数学の教員免許を取得可能という点では、工学部の情報系もとれると聞いたことがあります。現象の微分方程式を作ったり解くのが物理学科、その原理を探求するのが数学科の傾向としてあるようです。

理学部　物理学科　２年

１．授業

演習の授業が特徴的。説いてきた問題を発表者が解説し、ツッコミ・質問を入れ合います。「そこはなんでですか」「そうは言えなくないですか」「もうちょっと一般化しましょう」「論拠をはっきりさせましょう」etc.という感じです。学部進学直後にも「ここでは友人とよく議論し、よく考えてください」と先生方に言われました。演習の授業も好きですし、個人的には教育心理学も結構おもしろいと思います。

２．似ている学部・学科

2～4限まで詰まっている感じは理学部化学科に似ています。

図４　とらのまきアンケート編

学部・学科選択に関するアンケート

学年　　学部・学科

ピア・サポート室では学生の皆さんに役立つ情報を提供していくべく、皆さんからご協力を頂いています。このアンケートでは１年生の関心が高い学部・学科選択について、質問します。なお、この内容はピアサポーターによって編集され、個人が特定できない範囲で公開されます。

Q1-1.4学期制（クォーター制）は導入されていますか

Q1-2.スケジュール

	月	火	水	木	金
朝					
1限					
2限					
3限					
4限					
5限					
放課後					

Q1-3.忙しさ（1，2年と比べてどうか、バイトやサークルとの両立は可能か教えてください）

Q2.学科の特徴的な授業、自分が好きな授業について教えてください

Q3.似ている学部・学科がもしあれば教えてください。

図５　学部・学科選択に関するアンケート

3. 部活・サークル大辞典

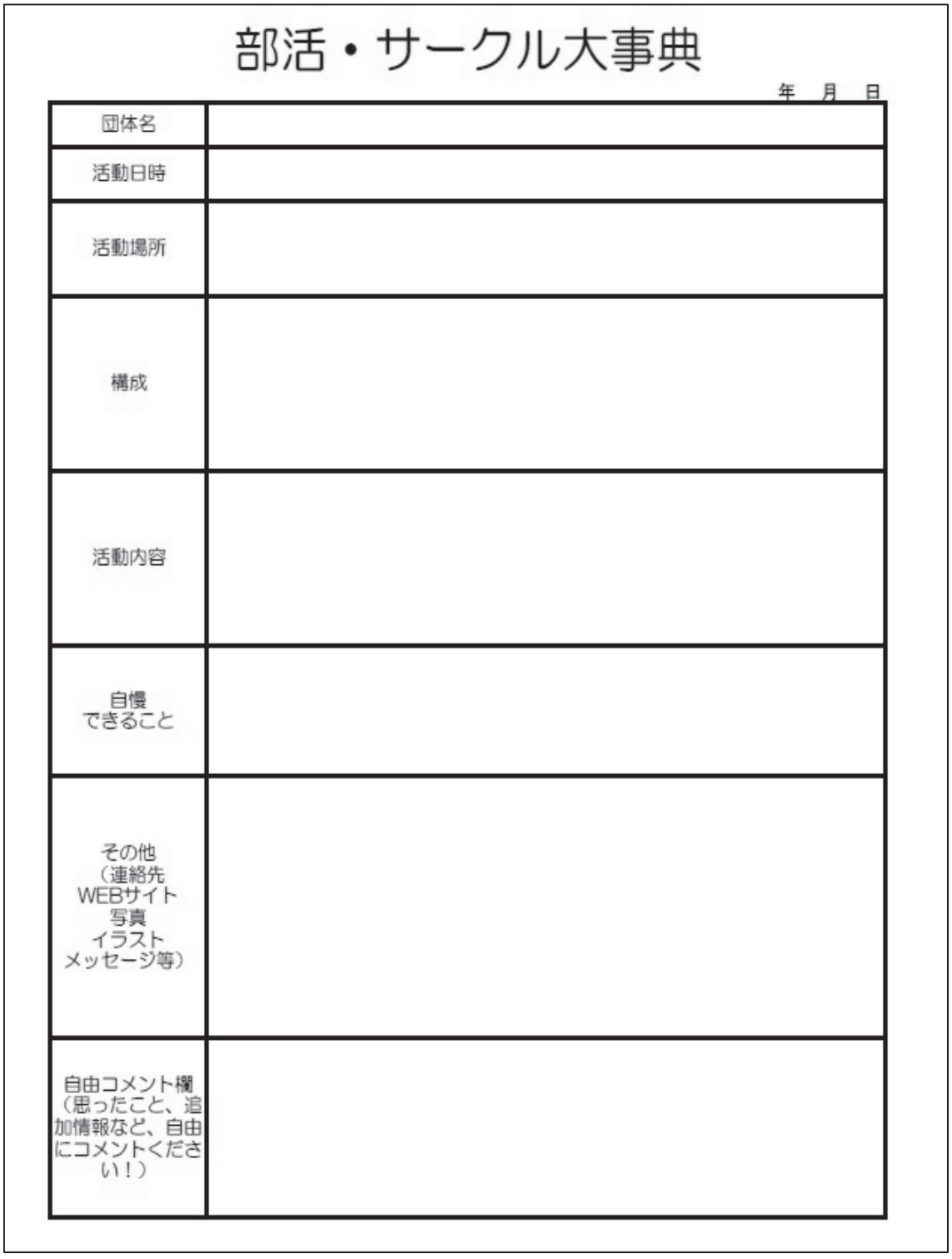
3.1. 目的

現在、多くの北大生が部活・サークルなどの課外活動団体に所属しており、部活・サークルに関する情報への関心は高いと思われる。大学内で部活・サークルの情報を得るには掲示板や立て看板、一年生向けに配られるビラなどの方法がある。しかし、これらの情報はいずれも整理されておらず、求めている部活やサークルの情報を探し出すのは困難である。よって、部活・サークルの情報を一つのファイルにまとめることでどの部活・サークルに入るか迷っている一年生が情報を探しやすい冊子を昨年度に引き続き、作成することとした。

3.2. 方法

情報の収集にあたっては、ポスターを掲示し「部活・サークル大辞典」記入用紙（図 6 参照）への記入を募集する、ピアサポーターの知人に記入を依頼するといった昨年度からの方法に加え、4 月に行われる健康診断の際に高等教育推進機構正面玄関前で一年生向けに配られているビラや新歓時期に北部食堂の近くで配られているビラをピアサポーターが回収するといった方法をとった。ビラは、合計で 60 枚集まった。この方法によって、一度に多くの情報を集めることができ、また、部活・サークル側も用紙に記入する手間が省ける。この方法は効果的であると考えられるため、来年度も継続していきたい。

また、これらの方法の継続に加え体育会等に情報収集の協力を依頼するといった方法も検討していきたい。さらに、今年度に収集したビラ等の情報は部活等の連絡先が古いものである可能性があるため、これまでに収集した情報の更新も行っていく。



部活・サークル大事典

年　月　日

団体名	
活動日時	
活動場所	
構成	
活動内容	
自慢 できること	
その他 （連絡先 WEBサイト 写真 イラスト メッセージ等）	
自由コメント欄 （思ったこと、追加情報など、自由にコメントください！）	

図６　部活・サークル大辞典記入用紙

4. 蔵書目録

現在、ピアサポート室内の本棚（図 8 参照）にはいままで「本活」企画で寄贈された本や「学部を選べ！」で紹介された本、ピアサポーターが寄贈した本等多くの本がある。ただし、それらの本はきちんと整理されておらず、利用者が読みたい本を探すことは難しい状態であった。そこで、蔵書目録を作成し、本をジャンルごとに並べることで蔵書の利用を促進するという目的で、昨年に引き続き蔵書目録を作成することとした。蔵書目録には、本の①NDC での分類番号②書名③著者・編集者名④出版社名⑤北大図書館での所蔵の有無を記載することとした。

目録の作成は蔵書目録作成マニュアルに則って行った。以下にその手順を示す。

① 本棚から本を取り出し、蔵書目録をエクセルで開く。
② 本を国立国会図書館国立国会図書館 http://iss.ndl.go.jp/の検索機能 (https://ndlopac.ndl.go.jp/F/F4R5JEMLB1855GXFKG4PBUC3BKB3QF8M3BKE7RSGU4TXMFNSBY51521?func=file&amp=&amp=&file_name=login&%3FRN=951178557&pds_handle=)（2017/02/27 閲覧）で検索し、NDC9 での分類番号を調べ、目録に記入する。
③ 書名・著者、編集者名・出版社名を本の巻末で確認し、記入する。
④ 北大図書館蔵書目録で所蔵の有無を確認して記入する。

蔵書目録そのものは来年度中の完成を目途に今後も作成を進めていきたい。目録完成後は、目録を一部印刷してピアサポート室内に設置する。また、蔵書を利用者に貸し出すことも検討していきたい。

蔵書目録の作成と並行して古すぎる本の撤去や、本のジャンルごとに付箋を本棚に貼るなど本棚の整理を行った。このような本棚の整理も継続して実施する。

分類	書名	著者・編者	出版社	北大図書館での所蔵
31.7	名探偵はぎみだ　証拠をつかめ	ハイ・コンラッド	早川書房	
100	自分を知るための哲学入門	竹田青嗣	筑摩書房	
104	哲学の教科書	中島義道	講談社	○
113	知の構築とその呪縛	大森荘蔵	筑摩書房	
114	人間の条件	ハンナアレント	筑摩書房	
124.25	荘子　外篇雑篇	金谷治　訳注	岩波書店	○
133.4	自由論	JSミル	岩波書店	
141.21	色の暗号　カラーセラピーで知る本当のあなた	泉智子	大和書房	○
146.1	死ぬ瞬間 死とその過程について	E・キューブラー・ロス	中央公論新社	○
146.1	ものぐさ精神分析	岸田秀	中公社	○
147.7	前世療法　米国精神科医が体験した輪廻転生の神秘	ブライアン・L・ワイス	PHP研究所	
148.14	手相術　自分の運命が一瞬でわかる	高山東明	三笠書房	
156	武士道　人に勝ち、自分に克つ強靭な精神力を鍛える	新渡戸稲造/	三笠書房	
159	心をリセットしたいときに読む本	齋藤茂太	ぶんか社	○
159	モタ先生と窓際OLの心がらくになる本	齋藤茂田/	新潮社	
159	小さいことによくよするな！	リチャードカールソン	サンマーク出版	
162	宗教世界地図	石川純一	新潮社	○
172	〈出雲〉という思想　近代日本の抹殺された神々	原武史	講談社	
180.4	仏の教え　ビーイング・ビース　ほほえみが人を生かす	ティク・ナット・ハン	中央公論社	
183.06	大乗仏典　7　維摩経　首楞厳三昧経	長尾雅人	中央公論社	
210.7	おじいちゃん戦争のことを教えて　孫娘からの質問状	中條高徳	小学館	
281.04	清貧の思想	中野孝次	文藝春秋	○
291.093	おとなの青春18きっぷの旅	学研パブリッシング	学習研究社	

図 7　蔵書目録（一部抜粋）

図 8　ピアサポート室内本棚

5. まとめ

以上、本年度情報収集チームで実施された 3 つの取り組みについて記した。当初の目的として設定されていた学部学科選択の枠を超えて、チームとしての活動は多岐にわたるようになってきている。

一方各項目で記しているように、それぞれの活動には今なお課題が残っている。その他、特に「とらのまき」と「部活・サークル大辞典」については、何らかの形で利用者側からのフィードバックを得ることがより重要だと考えられる。どれだけの利用者が閲覧しているのか、また利用者が他に欲している情報はないかなどを知ることによって、ピア室の業務全体を改善できると考えられる。

また本稿で紹介した 3 つについては、ただ情報を利用者側に提示しているだけではなく、サポーターと利用者側とのコミュニケーションツールとしても機能しうる。実例として、「とらのまき」を閲覧していた利用者に声を掛けたことで、進路に関する相談へと発展したケースがあった。今後はこのように「とらのまき」「部活・サークル大辞典」「蔵書目録」のそれぞれを ”コミュニケーション用の媒体” ととらえ、利用者側との積極的な交流にどう生かして行くかという視点で活動の幅を広げて行きたい。

【参考文献】

鎗水孝太・澤田華乃 (2012)「3. 学生が語る「学部」の多様性と可能性」 『北海道大学ピア・サポート活動報告書（平成 24 年度版）』p.31-41